

価格.comのデータを分析した最新トレンドをお届けする「価格.comレポート」

年末商戦に向けて新製品ラッシュのタブレット！

厳しい競争を勝ち抜き、この年末の「売れ筋」となるのはどの製品!?

ここ2~3年人気が高まり、昨年2013年の年末は、Windowsタブレットを中心に大きな盛り上がりを見せた「タブレット端末」。今年2014年も、年末商戦のかき入れどきを前に新製品の発表・発売が相次ぎ、各OSを代表するタブレット端末の顔ぶれがほぼ揃いました。競合が激化する中で、この年末にもっとも消費者の人気を集めるのはどの製品なのか、購買支援サイト「価格.com」におけるユーザー動向を分析することで、この年末の売れ筋製品を大胆予想してお届けします。

■タブレット関連の注目度は年末に急増。今秋で各OSの主力機種が出揃う

図1 「タブレットPC(端末)・PDA」カテゴリーのアクセス推移(過去2年間)

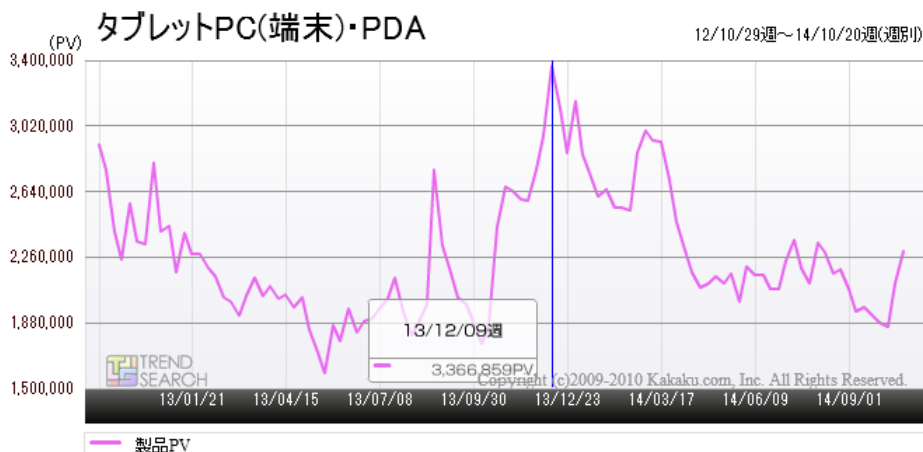
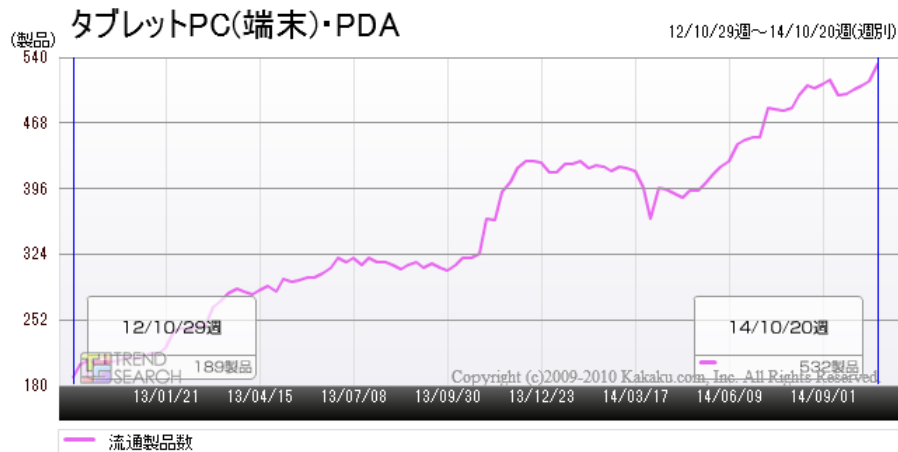


図1は、価格.comの「タブレット端末(PC)・PDA」カテゴリーのアクセス推移を示したものです。携帯に便利な7インチモデルが相次いで発売された2年前あたりからアクセス増のペースが加速、Googleの「Nexus」シリーズやアップルの「iPad」シリーズが人気をリードしてきました。昨年2013年の年末商戦が本格化した2013年12月9日週には、過去最高のアクセスを記録している。このように、これまでの2年間の推移を見る限り、新製品が多く発売される秋から年末商戦にかけての時期に盛り上がる傾向があり、今年も年末に一大需要を迎えることが予想される。

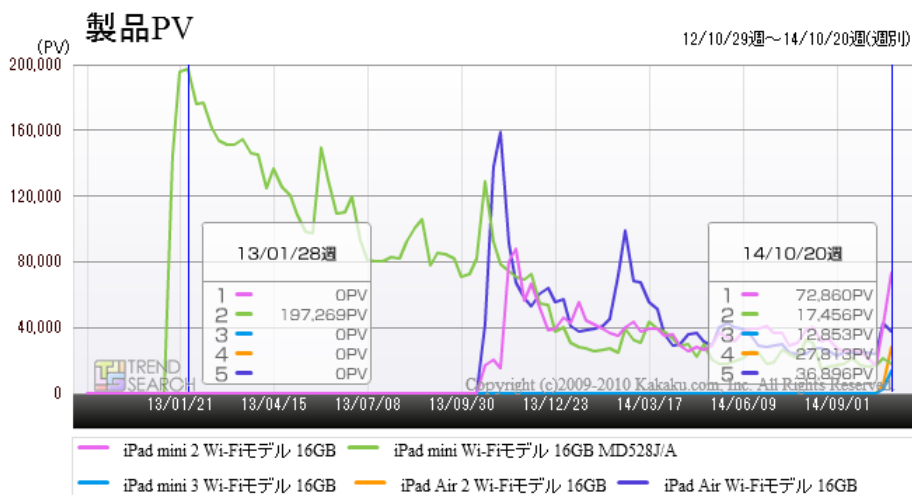
こうしたタブレット端末の人気にともない、今年の秋も年末商戦に向け、多様なコンセプトを持つ製品が次々とリリースされた。図2からわかるように、価格.comの「タブレット端末(PC)・PDA」カテゴリーに登録されているタブレットの流通製品数は、約2年前に182製品だったものが、直近では約2.8倍の532製品まで増加しており、この年末商戦は、製品間で激しい競合状況が予想される。以下、それぞれの搭載OSごとに、現在までの動きと、この年末に向けてのトレンドを検証していこう。

図2 「タブレットPC(端末)・PDA」カテゴリーの流通製品数推移(過去2年間)



■新モデル発売も新鮮味を欠く「iPad」。価格見直しで従来機種に人気が集まる

図3 歴代「iPad」と「iPad mini」4機種のアクセス推移



これまで、タブレットというジャンルを引っ張ってきた草分け的存在のアップル「iPad」シリーズであるが、この年末がひとつの勝負どころとなりそうだ。2014年10月下旬に9.7インチの「iPad Air 2」と、7.9インチの「iPad mini 3」が発売されたが、今年は例年のない注目度の低さからのスタートとなった。特に、7.9インチの「iPad mini 3」は、従来機種種の「iPad mini 2」(旧「iPad mini Retina ディスプレイモデル」)と基本スペックが同等なこともあり、新モデルへの注目度はほとんど上がっていない(図3)。「iPad mini 3」16GBモデルの10月20日週のアクセス状況は12,853PV/週と、初代「iPad mini」が発売された2年前の197,269PV/週と比べると、その10分の1にも満たない。いっぽう、ボディがさらに薄型・軽量化され、チップセットが一新された9.7インチの「iPad Air 2」もアクセスは低調だ。両モデルとも、これまでにないほど発売後の盛り上がりを欠いている。

こうした新モデルの不調に対し、逆に盛り上がりを見せているのが、新モデルの発売で値下がりした従来機種だ。特に、新モデルとスペックがほとんど変わらないのに、価格が安くなった従来機種「iPad mini 2」については、ここへきて売れ筋ランキングで1位を獲得するなど、意外な盛り上がりを見せている(図4)(図5)。

2014年10月28日現在の価格.com 最安価格では、もっとも人気の「iPad mini 2 Wi-Fi モデル 16GB」が、31,390円。これに対して、新モデルの「iPad mini 3 Wi-Fi モデル 16GB」は44,353円と、13,000円程度の価格差があり、もともと高めといわれていた「iPad mini」としては値ごろな価格になったことで、人気が集まっている。その分、新モデルの影が薄くなっている面は否めず、ある程度の値下がりがない限り、この傾向が続くものと思われる。

図4 「iPad mini 2」と「iPad mini 3」の売れ筋ランキング推移（過去3か月間）



図5 「iPad mini 2」の最安価格推移（過去3か月間）



■ 価格差が拡大する Android タブレット。「Xperia」シリーズが台風の目になりそう

「iPad」に見られるような注目度の低下は、コストパフォーマンスにすぐれる Android タブレットでも顕著だ（図6）。Android タブレットの代表的モデルである Google の「Nexus」シリーズを例にあげると、昨年 2013 年 8 月に発売された 2 代目「Nexus 7 (2013)」の 10 月 20 日週のアクセスは 50,108PV/週。これは、初代「Nexus 7 (2012)」が 2012 年 10 月に記録した 860,631PV/週のわずか 17 分の 1 程度にとどまる数値だ。

さらに、今年 2014 年 10 月 16 日に発売された 8.9 インチの新モデル「Nexus 9」に至っては、10 月 13 日週のアクセスは 14,340PV/週しかなく、ほとんど認知されていない模様。11 月上旬発売予定の「Nexus 9」は、マグネット着脱式のキーボードや 2048×1536 の高精細なディスプレイを搭載するなど、さながらマイクロソフトの Windows タブレット「Surface Pro 3」との競合を見据えた斬新な設計となっているが、16GB モデルの 10 月 28 日時点の最安価格が 43,092 円と、歴代の「Nexus」シリーズと比べるとやや高めな印象がある。消費者の間では、「Nexus」

シリーズを高級機ととらえる向きもあり、それまでの強みであったコストパフォーマンスの高さが影を薄めてきたことも、低調なアクセス数の要因として考えられる。

図6 歴代「Nexus」シリーズ（Nexus 7、Nexus 9）4機種のアクセス推移（過去2年間）

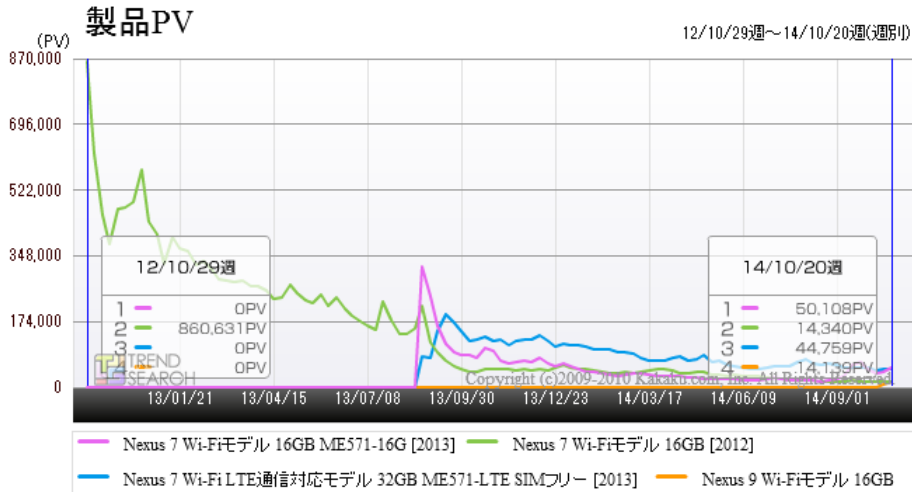
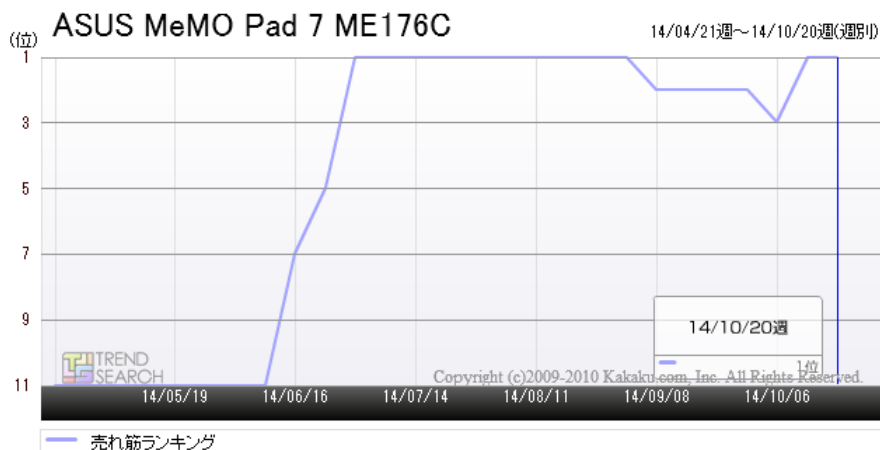
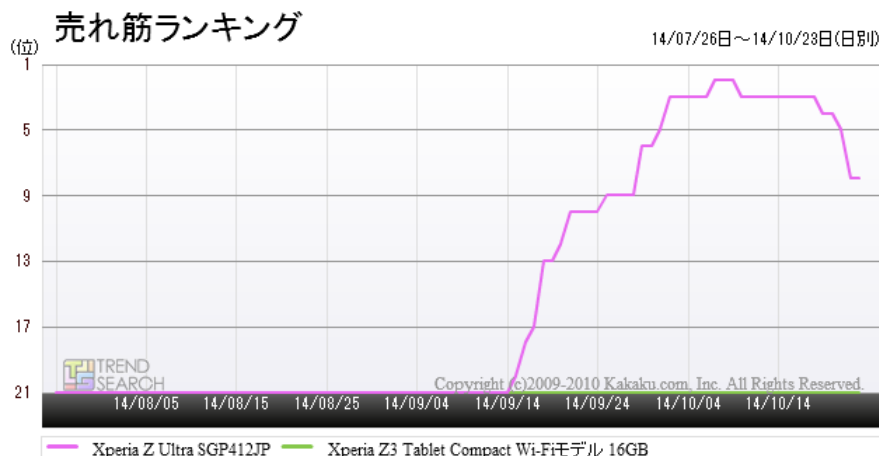


図7 「MeNO Pad 7」（従来モデル）の売れ筋ランキング推移



「Nexus」シリーズが低調な一方で、勢いを増している製品もある。7インチクラスでは、ASUSの「MeMO Pad 7」やGoogleのSIMフリー版「Nexus 7」、ソニーの「Xperia Tablet」シリーズなどがそれに当たる。「MeMO Pad 7 (ME176C)」は、最安価格が16,000円を下回る買やすい価格設定が受け、初めてタブレットを買う人からすでに持っている人まで、幅広いユーザー層の支持を集めており、売れ筋ランキングでは1位をほぼ独走してきた(図7)。また、SIMフリー版の「Nexus 7」は、MVNO各社が提供するSIMカードを使用することで、通信費を安く抑えることができるのが魅力。Androidタブレットでは、SIMフリーモデルの人気の高まってきており、10月中旬に発売されたASUSの新型「MeMO Pad 7 (ME572CL)」が、同シリーズ初のSIMフリーのLTE対応モデルとしてすでに注目を集めており、この冬のヒット作となるかも注目される。従来機種のように、microSDメモリーカードで手軽にストレージを拡張できるだけでなく、1920×1200のWUXGA液晶やインテルのクアッドコアCPUを搭載するなど順当なスペックアップを遂げた製品で、現在の最安価格は33,000円程度だが、すでに売れ筋ランキングで5位に入っているほどの人気で、30,000円を下回ってくれば、さらに人気が出てきそうだ。

図8 「Xperi Tablet」3機種 の売れ筋ランキング推移（過去3か月間）

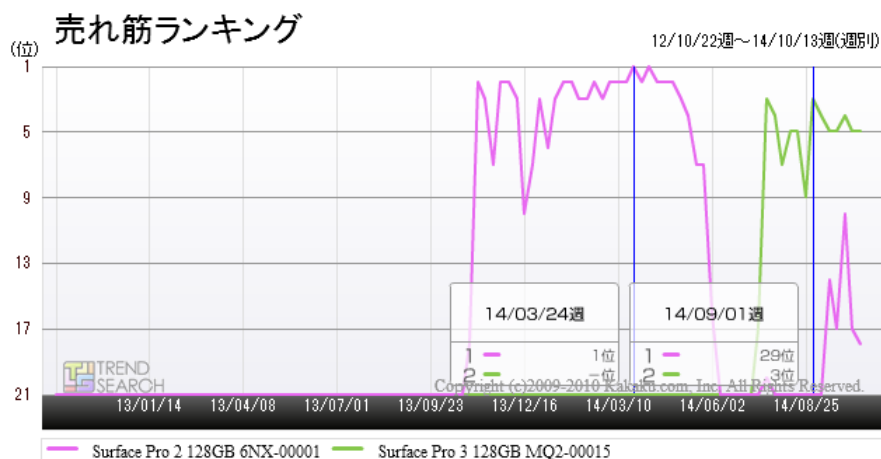


また、高性能モデルでは、ソニーの「Xperia」シリーズも一大勢力として台頭しそうだ。こちらは、6.4インチの「Xperia Z Ultra」から8インチの「Xperia Z3 Tablet Compact」、10.1インチの「Xperia Z2 Tablet」と、3サイズのタブレットをフルラインで展開しており、強いブランドイメージを打ち出している。特に、6.4インチの「Xperia Z Ultra」は、最安価格が33,000円程度まで下がった直後に、売れ筋ランキングで2位まで急上昇しており、今年1月発売のモデルながら根強い人気を誇っている（図8）。このあたりの展開は、「iPad mini 2」が33,000円以下まで値下がりして売れ筋ランキングの1位に急浮上したのとよく似ており、値ごろ感のある30,000円近くまで販売価格が下がってくると、一気に人気が出る傾向にあるようだ。

また、「Xperia」シリーズの最新モデルでは、11月上旬に発売される8インチの「Xperia Z3 Tablet Compact」にも注目だ。9型未満のタブレットでは世界最軽量のボディながら、防水・防塵設計で、大容量のバッテリーを搭載。ハイレゾ音源の再生にも対応するなど、国内メーカーらしい全部入りの仕様が特徴だ。最安価格は16GBモデルで46,000円と現時点ではやや高めだが、年末に向けて価格が下がっていけば一気に売れ筋ランキングの上位に躍り出ることだろう。

■代表モデル「Surface Pro」が不調なWindowsタブレット。年末は低価格モデルが狙い目

図9 「Surface Pro 3」と「Surface Pro 2」の売れ筋ランキング推移（過去2年間）



これまでタブレットの人気をリードしてきたアップルの「iPad」シリーズや Google の「Nexus 7」を追い上げるように、昨年後半から急激に人気を高めてきたのが Windows タブレットだ。2014 年は国内外メーカーの新規ラインアップ投入が相次いだ。なかでも 2014 年 7 月中旬に発売されたマイクロソフトの「Surface Pro 3」は、今年を代表する注目商品に。パソコンと同じアプリケーションを動作できる「Windows 8.1」を搭載、着脱式のキーボードを使って素早いタイピングもできるのが特徴。発売前から注目を集めたが、現在のところ「Surface Pro 3」は、前機種「Surface Pro 2」ほどのヒットにつながっていない。売れ筋ランキングの順位は、9 月に過去最高の 3 位まで上昇したが、10 月 27 日時点では 15 位まで後退している（図 9）。12 インチというタブレットとしては大きめなボディサイズや、発売時の最安価格が 128GB モデルで 120,000 円以上という価格の高さもネックとなったようだ。何らかの施策が打ち出されないと、この年末に売れ筋ランキングの上位を獲得するのは難しい雰囲気だ。

図 10 「TransBook T100TA」2 機種の売れ筋ランキング推移（過去 2 年間）



パソコンと同等に使えることが魅力の Windows タブレットは、他と比べると、価格帯が高い傾向にある。ところが、今年は、Windows タブレットでも売れ筋製品の低価格化が進んだ。これを如実に表しているのが、ASUS のキーボード着脱式 10.1 インチタブレット「TransBook T100TA」の安定的なヒットだ。2014 年 8 月末に後継機種が発売されて以降、一気に売れ筋ランキングの 1 位を獲得。タブレット本体のストレージ容量は 32GB と、「Surface Pro 3」と比べるとかなりスペックは落ちるものの、最安価格が 45,000 円程度とその値ごろ感が人気を集めた（図 10）。

また、2013 年の年末に大きな人気を見せた 8 インチクラスの Windows タブレットについても、今年は盛り上がりがいまひとつ。「TransBook T100TA」をはじめとする 10 インチクラスのモデルが値ごろ感を強めていることが大きな要因だが、ノートパソコンのように使いたいという人が多い Windows タブレットの場合、10 インチクラスのほうが扱いやすいと感じる人が多いのだろう。年末商戦では、Windows タブレットのような高単価な製品も大きく動く可能性はあるが、現在までの推移を見る限りでは、Windows タブレットの勢いは昨年ほど感じられない。

総論：ハイスぺック志向が強まるものの、消費者の価格に対する見方は一層厳しく

タブレットのラインアップは今秋までに一気に拡大しており、消費者の選択肢は広がっている。ところが、20,000 円以下で購入できる 7 インチクラスの Android タブレットの人気が定着したこともあって、消費者の価格に対する見方は一層シビアになっており、高機能なモデルについてもあまり高すぎると売れない、という現象が起り始めている。その点では、今秋に発売・発表された新型「iPad」や「Nexus 9」は、苦戦を強いられそうだ。

この年末のタブレット商戦の主役は7~8インチクラスの製品になりそうだが、「iPad」なら値ごろ感の強い「iPad mini 2」が、Androidタブレットなら3万円台の製品が、Windowsタブレットなら4万円台の製品が、売れ筋の中心となりそう。もちろん、SIMフリー版のAndroidタブレットや、高機能を詰め込んだ「Xperia」シリーズなど一部の高性能なモデルはこの例外であり、価格的に値ごろ感が出れば、十分に売れ筋ランキングの上位を狙える可能性がある。いずれにしても、この年末のタブレット商戦では、価格設定が売れ行きに大きな影響を与えそう。

●価格.com タブレット関連カテゴリ：<http://kakaku.com/pc/pda/>

●価格.com タブレット関連 注目ランキング：http://kakaku.com/pc/pda/ranking_0030/hot/

●価格.com トレンドサーチ：<http://kakaku.com/trendsearch/>

価格.com ユーザーの行動・クチコミデータから市場状況を分析することに特化したマーケティングサービス

【価格.com サイトデータ】(2014年6月末現在)

月間利用者数 4,483 万人、月間ページビュー 8 億 6,703 万 PV、累計クチコミ件数約 1,800 万件
<利用者内訳> PC：2,724 万人 スマートフォン：1,706 万人 フィーチャーフォン：53 万人

【株式会社カカクコム 会社概要】

所在地： 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート

代表取締役： 田中 実

企業情報：<http://corporate.kakaku.com/>

事業内容： サイトの企画・運営

当社運営サイト一覧：<http://corporate.kakaku.com/company/service.html>

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社カカクコム 広報室

e-mail: pr@kakaku.com

データを引用・転載いただく際のクレジット表記について

本レポートの引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。

例)「価格.com レポート」より、「価格.com」のデータ分析によると…など